

## 特集：展示と教育

# 「学習に必要な図書」「読んでもらいたい図書」を いかに利用者に注目してもらうか

— 徳島大学附属図書館蔵本分館の取り組みについて —

田中 孝次

## はじめに

### 徳島大学附属図書館蔵本分館の概要

徳島大学附属図書館蔵本分館（以下、「当館」と呼ぶ）は医学部・歯学部・薬学部・大学病院・先端酵素学研究所などのある蔵本キャンパスに立地しています。2019年9月末現在で約18万冊の図書を所蔵しており、同キャンパス所属の教職員約1,700名、学生約2,800名を主な利用者としています。

当館は医歯薬学系の図書館ですので、「医歯薬学の学習に必要な図書をいかに効果的に利用してもらうか」が重要になります。一方で、「医歯薬学の内容に偏らず、学生の幅広い分野の読書を推進する」ことも必要になります。これらを実現するために当館が現在取り組んでいる展示などについて紹介いたします。

## 学習に必要な図書を効果的に利用してもらうための取り組み

### 1. テーマ展示

<https://www.lib.tokushima-u.ac.jp/siryou/supportnavi/branch/index.html>

旬のテーマやひとつの分野に収まらない学際的なテーマをとりあげることを目的として、2012年11月から始めたものです。2019年9月末現在で第72回まで実施しており、（夏季休業・年末年始などの長期休業期間を除き）45～50日程度でテーマを変えるようにしています。

あるテーマの図書は、当館ではNDC分類により書架に配架されています。しかし、テーマによっては特定の書架に全てまとまって配架されているとは限りません。そこで、書架を離れて、あるテーマの図書・雑誌をここに並べることで、「学習し

ている分野にはこの観点もあったのか」という新しい注目・発見につなげてほしい狙いがあります。

展示コーナーが入口近くにあるため、学生・教職員だけでなく、来館する一般の方にも目に留まりやすくなっていて、当館展示の目玉的存在になっています。

ここでは、テーマに沿った図書・雑誌を展示するだけではなく、iPadなどで動くアプリや有益なWebサイトなども紹介しています。実際にiPadを展示の所に置き、利用者が操作・体験できるようにしています。ただ、テーマによっては適切なアプリ・Webサイトが見つからないことも多く（その場合は残念ですがiPadは使用しません）、今後の課題になっています。



急ぎ取り上げたいテーマが出た場合は、定期的な展示と並行してミニ展示の形で実施しています。過去には「がん免疫療法 ～祝・ノーベル医学生理学賞 本庶佑 京都大学特別教授～」などを展示しています。これらは旬のテーマを扱うため、新聞発表等から2～3日以内で展示できるよう作業を進めます（このため、後述する教員への監修依頼は行いません）。回数はおよそ数年に1回程度と多くはありませんが、時事的な内容であるため、利用者の関心は高いようです。

テーマ展示を続けていく際、取り組みについて転換点がいくつかありました。

まず、当時の附属図書館長の助言により、第17回（感染症）から専門の教員への監修をお願いすることとしました。このため、現在の実施手順は以下のとおりとなっています。